

高専生の性意識・性行動に関する調査研究

—本校1年生の現状から—

石尾 潤*, 藤岩 秀樹*, 中村 貢治*, 西田 益子**

A Study on Sexuality Consciousness and Sexuality Behavior in Colleges of Technology Students

—A Present Condition of First Grader in Ube National College of Technology—

Jun ISHIO*, Hideki FUJIIWA*, Kouji NAKAMURA*, Masuko NISHIDA**

Abstract: The purpose of this study is clarifying sexuality consciousness and sexuality behavior in colleges of technology students. The subjects of this investigation were 140 male and 49 female of first grader in ube national college of technology students.

The results are summarized as follows:

- 1) The male students' sexual concern was higher than the female students.
- 2) 5.4% of the male students had experienced sexual intercourse, 20.0% female students.
- 3) Many of students are consulting with a friend on worries about sexual.
- 4) Many of the female students want to know about pregnancy, elective abortion, and sexually transmitted disease.

Key words: technical college students, sexuality consciousness, sexuality behavior

1. はじめに

最近、性の問題が深刻な社会問題として注目されるようになってきている¹⁾。

若者の性意識は多様化し、性行動は開放的になるとともに、積極化、自由化傾向にあるといわれている²⁾。とくにマスメディアなどによる性情報の氾濫が性の意識形成や性行動に大きな衝撃を与え、性に関する不安や悩みを増大させ、性の混乱を生じさせているともいわれている。

近年の青少年の性意識や性行動に関する調査研究において、青少年が性に対して寛容であるとか、活発な行動をとる傾向にあるという報告がある^{4) 5)}。このことは、若者の望まない妊娠や人工妊娠中絶を増加させ

ることにつながっているものと危惧され、大きな社会問題となっている。

このような状況下において「家庭」や「地域」、「学校」では、この問題に対してどのように向き合っているのか。学校教育においては、実態に即した指導が行えているのであろうか。

本校では、1年生の「保健」授業において、これら「性」の問題を取り上げ、講義を行っているが、この際、活用する各種統計・資料の内容が本校学生の実態に即したものであるのか疑問であった。また、これまで高等専門学校生を対象とした「性意識・性行動」に関する調査は見当たらない。

そこで本研究では、実際の教育場面に活用でき得る知見を得ることを目的に、本校の1年生を対象に性意識・性行動についての調査を実施した。本稿ではこの結果について報告する。

(2004年11月26日受理)

*宇部工業高等専門学校 一般科体育教室

**宇部工業高等専門学校 学生課保健室

表1. 性意識と性行動

	ある		ない		どちらともいえない		χ^2 検定
	男	女	男	女	男	女	
性に関する関心 (n=188)	89(63.6)	18(37.5)	11(7.9)	10(20.8)	40(28.6)	20(41.7)	**
異性への接近欲求 (n=189)	67(47.9)	16(32.7)	22(15.7)	15(30.6)	51(36.4)	18(36.7)	*
交際申し込み経験 (n=189)	40(28.6)	24(49.0)	89(63.6)	23(46.9)	11(7.9)	2(4.1)	*
デート相手 (n=188)	16(11.5)	13(26.5)	115(82.7)	32(65.3)	8(5.8)	4(8.2)	*
キス経験 (n=186)	25(18.2)	23(46.9)	101(73.7)	25(51.0)	11(8.0)	1(2.0)	***
ベッティング経験 (n=186)	19(13.8)	13(27.1)	111(80.4)	32(66.7)	8(5.8)	3(6.3)	ns
性交経験 (n=174)	7(5.4)	9(20.0)	116(89.9)	35(77.8)	6(4.7)	1(2.2)	*
性の悩みや不安 (n=180)	20(14.9)	14(30.4)	101(75.4)	26(56.5)	13(9.7)	6(13.0)	*

***: $p < 0.001$, **: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$

表2. 各性行動における初経験の時期

	小学生		中学生		高専入学後	
	男	女	男	女	男	女
キス経験 (n=48)	4(16.0)	5(21.7)	11(44.0)	9(39.1)	10(40.0)	9(39.1)
ベッティング経験 (n=33)	1(5.26)	1(7.1)	10(52.6)	6(42.9)	8(42.1)	7(50.0)
性交経験 (n=17)	0(0)	0(0)	4(50.0)	2(22.2)	4(50.0)	7(77.8)

表3. 性に関する悩みや不安の相談相手 (n=139)

	友人	母親	父親	先輩	兄弟	その他	χ^2 検定
男	78(79.6)	3(3.1)	3(3.1)	1(1.0)	1(1.0)	12(12.2)	ns
女	37(90.2)	3(7.3)	0(0)	0(0)	0(0)	1(2.4)	

2. 研究方法

2.1. 調査対象

対象は、平成15年度宇部工業高等専門学校1年生に在籍した189名(男子140名,女子49名)であった。

2.2. 調査内容

- 1) 性に関する関心の有無
- 2) 異性への接近欲の有無
- 3) 交際申し込み経験の有無
- 4) 性交経験の有無および時期
- 5) 性に関する悩みの有無と相談相手
- 6) 性に関する情報源
- 7) 性に関する知りたい内容
- 8) 交際相手から性交を求められた際の対応

2.3. 調査方法および調査時期

2004年2月、性に関する内容を取り扱う保健の授業時に無記名自記式による質問紙調査を実施した。なお、調査用紙の回収は個人のプライバシーを保護するため、密閉された箱のなかに投函する方法をとった。

2.4. データの解析

得られた回答のなかに誤記入や未記入があった項目については、その都度分析対象から除外し、分析をおこなった。また解析において比の差の検定が必要な場合には χ^2 検定を実施した。これら一連の統計解析にはStatView 5.0 Windowsを使用し、分析結果の有意水準については5%未満の危険率で判定を行った。

表4. 性に関する情報源 (n=163)

	友人	雑誌	インター ネット	学校	テレビ	ビデオ	専門書	家庭	その他	χ^2 検定
男	56(46.7)	19(15.8)	18(15.0)	13(10.8)	6(5.0)	2(1.7)	2(1.7)	0(0)	4(3.3)	ns
女	32(74.4)	5(11.6)	2(4.7)	3(7.0)	0(0)	0(0)	0(0)	1(2.3)	0(0)	

表5. 性に関する知りたい内容

	大変知りたい		少し知りたい		知りたくない		χ^2 検定
	男	女	男	女	男	女	
性行為感染症 (n=186)	29(21.0)	18(37.5)	76(55.1)	24(50.0)	33(23.9)	6(12.5)	*
避妊 (n=185)	39(28.3)	19(40.4)	69(50.0)	23(48.9)	30(21.7)	5(10.6)	ns
妊娠 (n=185)	28(20.3)	12(25.5)	74(53.6)	29(61.7)	36(26.1)	6(12.8)	ns
人工妊娠中絶 (n=186)	24(17.4)	13(27.1)	66(47.8)	23(47.9)	48(34.8)	12(25.0)	ns
性器の仕組み (n=188)	25(18.1)	3(6.4)	61(44.2)	24(51.1)	52(37.7)	20(42.6)	ns

*: $p < 0.05$

3. 結果および考察

3.1. 性意識と性行動について

表1には、本校1年生の性意識と性行動についての調査結果をそれぞれ示した。

「性に関する関心」では、関心が「ある」と回答したものは、男子で63.6%、女子で37.5%となった。また「ない」と回答したものは、男子で7.9%、女子で20.8%、「どちらともいえない」と回答したものは、男子で28.6%、女子で41.7%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.01$)。入谷ら⁶⁾は高知県内の高校生に同様の質問を行っているが、関心が「ある」と回答したものは、男子で71.4%、女子で63.4%であったことを報告している。この結果をみると本校1年生女子の割合が低値であることがわかる。

「異性への接近欲求」では、欲求が「ある」と回答したものは、男子で47.9%、女子で32.7%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.05$)

また、「交際申し込み経験」では、「ある」と回答したものは、男子で28.6%、女子で49.0%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.05$)。男子に比べて女子の方が交際に積極的であると考えられた。

「デート相手」の有無については、相手が「いる」と回答したものは、男子で11.5%、女子で26.5%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.05$)。入谷ら⁶⁾による高校生の調査によると、デート相手が「いる」ものの割合は、男子で22.4%、女子で27.2%と報告されている。本校1年生男子ではこの結果に比

べて割合が少ないことがわかる。

「キス経験」では、経験が「ある」と回答したものは、男子で18.2%、女子で46.9%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.001$)。女子では、およそ2人に1人の割合で経験しているという結果であった。また、初めてのキス経験では、男女とも「中学生時代」に経験するものと、「高専入学後」に経験するものがそれぞれ約4割に達することがわかった(表2)。

「ペッティング経験」では、経験が「ある」と回答したものの割合は、男子で13.8%、女子で27.1%となり、男女間の分布は有意ではなかった。女子では、およそ3~4人に1人が「ペッティング」を経験していることがわかった。また、初めてのペッティング経験では、男女とも「中学生時代」に経験するものと、「高専入学後」に経験するものがそれぞれ約4~5割に達することがわかった(表2)。

「性交経験」では、経験が「ある」と回答したものの割合は、男子で5.4%、女子で20.0%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.05$)。女子では、5人に1人の割合で「性交」を経験していることがわかった。また、初めての性交経験では、男子で「中学生時代」に経験するものと、「高専入学後」に経験するものがそれぞれ5割であるのに対して、女子では「高専入学後」に経験するものが約8割に達していることがわかった(表2)。東京都内の高校生を対象とした同様の調査⁷⁾においては、「性交経験率」が高校1年男子で24.8%、女子で25.5%であったと報告されている。

表6. 性交を求められた際の対応 (n=185)

	男	女	χ^2 検定
その時にならなければ、分からない	54(39.7)	19(38.8)	ns
相手の要求を受け入れる	25(18.4)	2(4.1)	
雰囲気によっては性交する	20(14.7)	7(14.3)	
よく話し合い、性交しない	15(11.0)	8(16.3)	
避妊・性感染症予防を求め性交する	15(11.0)	7(14.3)	
絶対拒否する	7(5.1)	6(12.2)	

これと比較すると、本校男子学生の「性交経験」は低く、先に述べた性に関する「関心」と「行動」とは一致しないことが確認された。

「性に関する悩みや不安」では、悩みや不安が「ある」と回答したものは、男子で14.9%、女子で30.4%となり、男女間の分布に有意差が認められた ($p < 0.05$)。女子の3人に1人が性に関する悩みや不安をもっていることになるが、女性では性交などに関して受け身であることが関係しているのかもしれない。また、これら不安や悩みの「相談相手」については、男女とも「友人」と回答した者が最も多く、男子で79.6%、女子で90.2%であった (表3)。

3.2. 性に関する情報源と知りたい内容について

表4および表5には、本校1年生の性に関する情報源と知りたい内容についての回答結果をそれぞれ示した。

「性に関する情報源」では、男女とも「友人」と回答したものが最も多く、男子で46.7%、女子で74.4%であった。次いで「雑誌」と回答したものが、男子で15.8%、女子で11.6%と多かった。

「性に関する知りたい内容」について尋ねたところ、「性行為感染症」について、「大変知りたい」と回答したものは、男子で21.0%、女子で37.5%、「少し知りたい」と回答したものは、男子で55.1%、女子で50.0%、「知りたくない」と回答したものは男子で23.9%、女子で12.5%となった。これら男女間の分布には有意差が認められた ($p < 0.05$)。

「避妊」では、「大変知りたい」と回答したものは、男子で28.3%、女子で40.4%、「少し知りたい」と回答したものは男子で50.0%、女子で48.9%、「知りたくない」と回答したものは男子で21.7%、女子で10.6%となり、これら男女間の分布は有意ではなかった。

「妊娠」では、「大変知りたい」と回答したものは、男子で20.3%、女子で25.5%、「少し知りたい」と回答したものは男子で53.6%、女子で61.7%、「知りたくない」と回答したものは男子で26.1%、女子で12.8%となり、これら男女間の分布は有意ではなかった。

「人工妊娠中絶」では、「大変知りたい」と回答したものは、男子で17.4%、女子で27.1%、「少し知りたい」と回答したものは、男子で47.8%、女子で47.9%、「知りたくない」と回答したものは男子で34.8%、女子で25.0%となり、これら男女間の分布は有意ではなかった。

「性器の仕組み」では、「大変知りたい」と回答したものは、男子で18.1%、女子で6.4%、「少し知りたい」と回答したものは男子で44.2%、女子で51.1%、「知りたくない」と回答したものは、男子で37.7%、女子で42.6%となり、これら男女間の分布は有意ではなかった。他の項目に比べて「知りたくない」と回答したものの割合が高いが、これは、「性器」という言葉に対してのイメージに「いやらしさ」や「恥ずかしさ」などがあり、聞きたくない、見たくないという意識があるのではないかと考えられる。

3.3. 性交を求められた際の対応について

表6には、性交を求められた際の対応についての回答結果を示した。

「性交を求められたらどうするか?」という質問に対して、6つの選択肢を用意し、回答してもらった結果、男女とも「その時にならなければ、分からない」と回答したものが最も多く、男子39.7%、女子38.8%となった。次いで男子では「相手の要求を受け入れる」が18.4%と多く、女子では「よく話し合い、性交しない」が16.3%となった。

4. まとめ

実際の教育場面に活用できうる知見を得ることを目的に、本校1年生を対象として性意識及び性行動についての実態調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

- 1) 「性に関する関心」や「異性への接近欲求」は女子よりも男子の方が強かった。
- 2) 「交際申し込み経験」や「デート相手の有無」については男子よりも女子の割合が高かった。
- 3) 「キス経験」は男子で18.2%、女子で46.9%、「ペッティング経験」は男子で13.8%、女子で27.1%、「性交経験」では男子で5.4%、女子で20.0%となり、いずれの項目においても男子に比べ女子の比率が高かった。
- 4) 性に関する不安や悩みの「相談相手」や「性に関する情報源」では、男女とも「友人」と回答したものが最も多かった。
- 5) 「性に関する知りたい内容」では、男子に比べて女子で「性行為感染症」「避妊」「人工妊娠中絶」の回答が多かった。

今後も個人のプライバシーに配慮することを大前提に、可能な限りこのような調査を継続し、学生指導に

役立てていきたいと考える。

文献

- 1) 片岡繁雄：高校生の性意識と性行動について，学校保健研究，24（11），535－543，1982
- 2) 日本性教育協会編：中学生高校生大学生の性行動白書，小学館，1988
- 3) 日本性教育協会編：青少年の行動－わが国の高校生大学生に関する調査報告－，小学館，1994
- 4) 日本性教育協会編：青少年の性行動（第4回），日本性教育協会，1994
- 5) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会：児童・生徒の性－東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識に関する調査報告－，1996
- 6) 入谷仁士，木村龍雄，野地照樹，山本和代，下村美佳子：高校生の性意識及び性行動に関する研究－性交経験の有無と性に関する知識のニーズ及び悩みについて－，学校保健研究，42（3），245－255，2000
- 7) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会：児童・生徒の性－東京都幼・小・中・高・心障学級・養護学校の性意識に関する調査報告－，2002